

没後50年 初山滋展 見果てぬ夢

<同時開催>

いわさきちひろと師・中谷泰^{なかに たい}／ちひろ美術館コレクション 冒険する子どもたち

2023年9月9日(土)～11月30日(木)

※会期は予告なく変更になる場合があります。

安曇野ちひろ美術館 展示室 4

主催：ちひろ美術館

協力：初山斗作、城田三茶、藤原浄峰、至光社、福音館書店、フレーベル館、平凡社

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、
日本児童図書出版協会

光と、水と、虹と、鳥と…… きらめく夢の世界に遊ぶ

初山滋（1897-1973）は、21歳のときに児童文芸誌「おとぎの世界」で注目を集めて以来、大正から昭和にかけての50年余りに渡り、“童画”の世界に欠かせない画家として活躍しました。幼いころから体に染みついた江戸の装飾美に、西欧のモダンな感覚を巧みに融合させ、美意識の赴くまま自由な表現を展開したその絵は、没後50年を経た今も新しさを失わず、みずみずしい感覚にあふれています。1930年代からは自画・自刻・自摺の木版画も数多く手がけ、ここにも独創的な表現を見ることができます。

本展では、初山滋の人生を追いながら、童画や木版画のほか、装丁画、絵本の原画、貴重書など約170点を展示します。流麗な線と明澄な色彩でつむがれた、きらめくような夢幻の世界をご覧ください。



1-1 かいのこどもたち 1965年 個人蔵



1-2 はるのはこび 1962年 ちひろ美術館寄託

初山滋 (1897～1973)

東京・浅草に生まれる。小学校卒業後、模様画工房に奉公に入り、後に挿絵画家の井川洗厩に学ぶ。1919年に児童文芸誌「おとぎの世界」の表紙を描いて注目を集め、以後絵雑誌「コドモノクニ」などの絵で、童画家として広く知られるようになる。1927年、武井武雄、岡本帰一らと日本童画家協会を結成。第二次世界大戦中、子どもの本の仕事が激減するが、この時期に木版画の制作に集中した。1946年日本童画会結成。戦後も絵本や教科書の表紙などを数多く手がけた。

展覧会の見どころ

絵雑誌「コドモノクニ」の代表作を出品します

大正時代からの童画の黄金期を築く土壌となった絵雑誌「コドモノクニ」にも、初山滋は数多くの作品を発表しました。1935年に出版された初めての画集「初山滋童画集」にも選ばれた、代表作を展示します。

変幻自在の線にも注目

初山滋は、日本画の修業で培われた流麗な線を土台にしながら、アール・ヌーヴォーなどの西洋の新しい美術も吸収していきました。優美で迷いが無いその線は、変幻自在でありながら、比類ない個性を感じさせます。

自画・自刻・自摺の木版画も紹介

戦時中、時局にあった絵を描けなかった初山滋は、子どもの本の仕事が減っていくなかで、創作木版画の制作に熱中しました。手摺の私刊本や、「彫りすすみ」の手法で制作された希少な作品など、初山滋のもうひとつの注目すべき画業である木版画を紹介します。

アンデルセンや宮沢賢治の絵本の原画も

『おやゆびひめ』『マッチウリのしょうじょ』『にんぎょひめ』などのアンデルセン童話の絵本をはじめ、チャイコフスキーのバレエ曲を絵本にした『はくちょうのみずうみ』、宮沢賢治の童話集など、戦後出版されたさまざまな絵本の原画も展示します。

懐かしい教科書の装丁も

1957年から22年間、初山の絵が小学校の国語の教科書の表紙を飾りました。変幻自在な線や形、きらめくような色彩で描かれた、まるで宝石箱のような教科書は、子どもたちの目を楽しませました。

出展作品数

作品=約140点 貴重書を含む書籍資料=約30点



1-3 蝶サン ウツシマソヨ! 1933年 個人蔵



1-4 大根人形をおんぶする子豚(仮題) 1920年代(推定) 個人蔵



1-5 『にんぎょひめ』(フレーベル館)より 1967年 ちひろ美術館寄託



1-6 きのことしだ 1960年頃 個人蔵



1-7 雪 1960年代 個人蔵

関連展示 初山滋 版画展 初山イズム

須坂版画美術館・平塚運一版画美術館

2023年9月30日(土)～11月26日(日)

〒382-0031 長野県須坂市大字野辺1386番地8 TEL.026-248-6633

*双方の入館券の提示で入館料が100円引きになります。

展覧会図録 『初山滋 見果てぬ夢』

初山滋・著

ちひろ美術館・編

平凡社 2300円(税別)



図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・畔柳

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apublicity@chihiro.or.jp

いわさきちひろと師・中谷泰

<同時開催>

没後50年 初山滋展 見果てぬ夢

ちひろ美術館コレクション

冒険する子どもたち

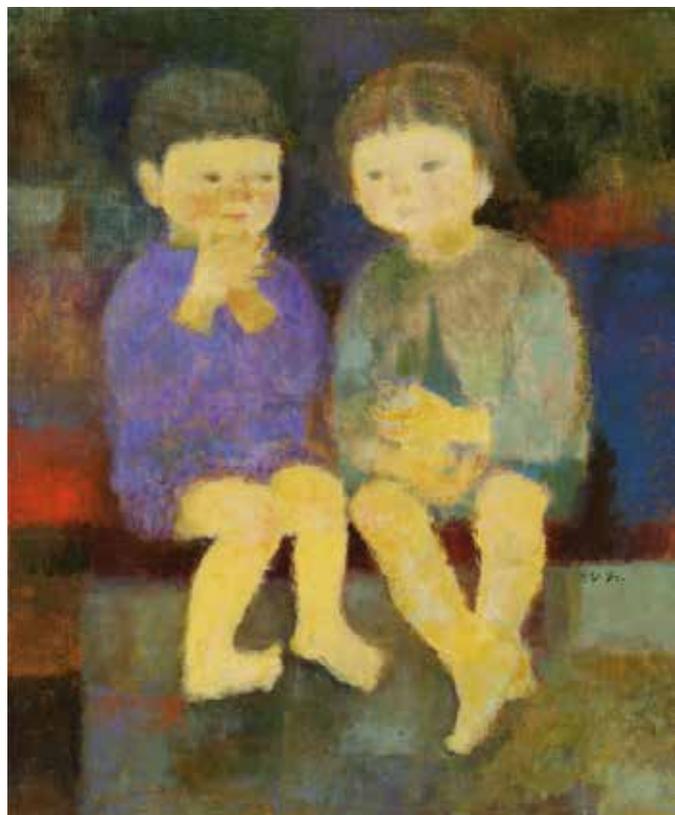
2023年9月9日(土)～11月30日(木)

※会期は予告なく変更になる場合があります。

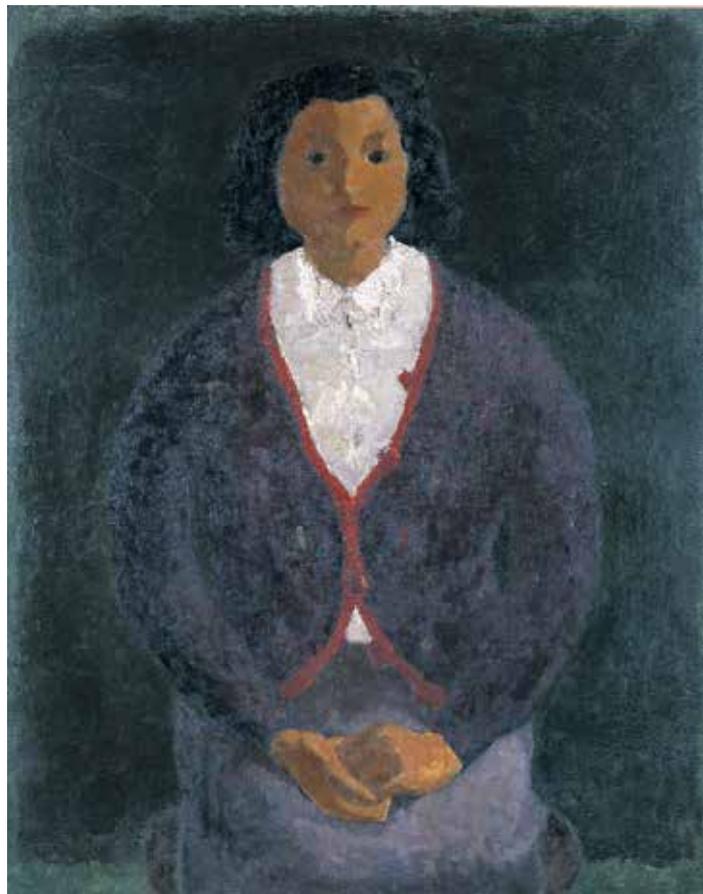
安曇野ちひろ美術館 展示室1・2

主催：ちひろ美術館

協力：三重県立美術館、中谷椽一郎、中谷田鶴、中谷革児



2-1 いわさきちひろ 子ども 1962年



2-2 中谷泰 婦人像 1942年

たくまずして仕上ってゆくカンヴァスをのぞきこんで、このひとの眼にはふしぎとももの形が美しく映るんだなァと思うことがあった。もちまへのデッサン力とでもいったらいいのか、そのころからの恵まれた素質は後年大きく花開いて、やわらかい一本の線とみずみずしい色彩でいろんな物語を描いてみせた。

中谷泰 1974年

戦後美術の奔流のなかでそれぞれの道を模索した ちひろと師・中谷泰の姿に迫ります

戦争と家制度に翻弄されながらも、ちひろは絵を描くことへの情熱を断ち切ることができず、終戦後、画家になることを決意します。戦中にちひろが師事した中谷泰は、ちひろが画家として立つまでの過程を見守った唯一の画家です。ちひろが子どもの本を舞台に活躍するようになり、亡くなるまでふたりの交流は続きます。ふたりが歩んだそれぞれの道と交差するあたかなまなざしを紹介します。

展覧会の見どころ

画家ちひろ誕生前夜

戦災を逃れた唯一のちひろの油彩〈なでしことあざみ〉や、戦中に中谷がちひろをモデルに描いたとされる油彩〈婦人像〉、いっしょに旧満州(中国東北部)に滞在した時期の資料や中谷の油彩、終戦後の揺れ動く思いをしたためたちひろから師・中谷への手紙などを通して、画家となる前の知られざるちひろの素顔を探ります。

民主的な表現を求めて

終戦後、流派を超えて画家たちが民主的な表現を求めて沸き立つなかで、ちひろは師・中谷と同じ日本美術会にも出展し、肩を並べて切磋琢磨します。画壇の潮流に近づきながらも、身近な人物や静物を見つめ、独自のリアリズムを追求したふたりの油彩を展示します。

それぞれに拓いた表現

ちひろは1960年代の後半以降、絵本を舞台に活躍の幅を広げます。そして、絵で展開する絵本シリーズで新たな絵本表現の可能性を拓きました。一方、中谷は常滑の陶工や、炭坑風景など同じ題材に繰り返し取り組みながら、実直に自身の造形世界を深めていきました。中谷がたびたび訪れた常磐炭坑をちひろも取材して描いています。ふたりが描いた炭坑の風景も紹介します。

出展作品数

いわさきちひろ＝約55点 中谷泰＝約20点



2-3 中谷 泰 農民の顔 1954年
三重県立美術館蔵



2-4 いわさきちひろ 眼帯の少女
1954年



2-5 いわさきちひろ なでしことあざみ
1940年代前半蔵



2-6 いわさきちひろ 赤い帽子の男の子
1971年

いわさきちひろ(1918～1974)

福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。1956年小学館児童文化賞、1961年『あいうえおのほん』産経児童出版文化賞、1973年『ことりのくるひ』(至光社)でポローニャ国際児童図書展グラフィック賞等を受賞。代表作に『おふろでちゃぶちゃぶ』(童心社)、『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)などがある。

中谷 泰(1909～1993)

1909年、三重県松阪市に生まれる。20歳のときに画家を志し上京、川端画学校に学び、1930年の第8回春陽会で初入選。春陽会を通して出会った木村荘八に師事する。春陽会をはじめとする多くの展覧会に出品し、1971年から1977年にかけては東京藝術大学教授を務めるなど、戦前から戦後にかけての洋画界で重要な役割を果たした。

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※掲載紙/誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・畔柳

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail : apublicity@chihiro.or.jp

ちひろ美術館コレクション 冒険する子どもたち

<同時開催>

没後50年 初山滋展 見果てぬ夢

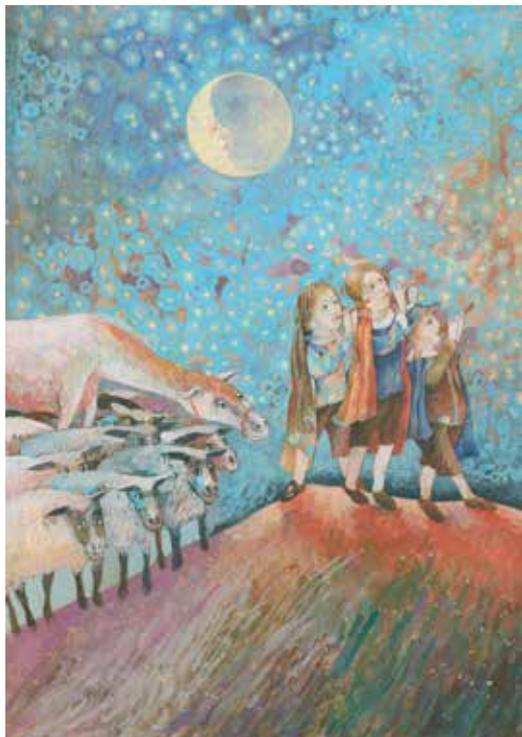
いわさきちひろと師・中谷 泰^{なかにたい}

2023年9月9日(土)～11月30日(木)

※会期は予告なく変更になる場合があります。

安曇野ちひろ美術館 展示室3

主催：ちひろ美術館



3-1 ドウシャン・カーライ(スロヴァキア)『ミオよ、わたしのミオ』より
2004年



3-2
ボリス・ディオドロフ(ロシア)
『ニルスの不思議な旅』より 1980年



3-3
アンドレア・ペトルリク・フセイノヴィッチ(クロアチア)
『不思議の国のアリス』より 2002年

絵本で冒険に出かけよう

子どものころに夢中で読んだあの冒険の物語。次のページにどんな展開が待っているのか、読み進めるのが楽しかった経験はありませんか？本展では、ちひろ美術館コレクションのなかから、冒険や探検をする子どもの姿を描いた作品を集めました。長く読み継がれてきた『ピノキオの冒険』や『ニルスの不思議な旅』、『不思議の国のアリス』などの物語のなかには、困難に立ち向かい、行く手を阻まれても勇気を持って進んでいく子どもが登場します。現実にはない景色や、一生懸命な主人公の姿を世界の絵本画家たちが想像力をふくらませて描いた作品から、再び冒険の世界をお楽しみください。

展示会の見どころ

『ニルスの不思議な旅』

物語の作者、スウェーデンのセルマ・ラーゲルレーヴは女性初のノーベル文学賞受賞作家です。誰にも好かれない乱暴者のニルスは小人に体を親指ほどの大きさにされ、ガンの群れとともにスウェーデン各地を旅することになります。ボリス・ディオドロフの作品は、エッチングの手法を用いて細密に場面を描き、鳥の群れは暗い画面のなかで白く浮かび上がるようです。

『不思議の国のアリス』

イギリスのルイス・キャロルが書いた女の子の冒険の物語『不思議の国のアリス』。本展ではクロアチアの絵本画家アンドレア・ペトルリク・フセイノヴィッチの作品で紹介。原作とは趣が異なり、明るく鮮やかな色彩で描かれた世界で不条理な物語がつつられます。

出展作品数

約30点



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・畔柳

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apublicity@chihiro.or.jp

展覧会関連イベント

ワークショップ「ちひろと初山滋の水彩技法を体験しよう！」

日時：11月11日(土)第1部 13:00～14:00
第2部 15:00～16:00

会場：安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

参加費：300円(入館料別)

定員：各回16名

対象：どなたでも ※未就学児は保護者同伴

申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)

いわさきちひろと初山滋の水彩技法を体験するワークショップを行います。にじみをはじめ、絵の具を散らすスパッタリングで複雑な色味をつかったり、塩を使った技法で模様をつかったり、楽しく体験しましょう。



2羽の小鸟「あかちゃんのくるひ」
(至光社)より 1969年

学芸員によるスライドトーク

日時：9月24日(日)・10月15日(日)
14:00～14:30 ちひろ展
14:30～15:00 初山滋展

参加費：無料(入館料別)

定員：30名

申し込み：不要(参加自由)

学芸員が開催中の展覧会の見どころを、スライドを用いてわかりやすく解説します。

会期中のイベント

ちいさなおはなしの会

日時：10月1日(日) 11:00～

参加費：無料(入館料別)

定員：20名

申し込み：不要(参加自由)

絵本カフェで、コーヒーを片手に、ちいさなおはなしの会を楽しみませんか？

あかちゃんとおでかけしよう！

ファーストミュージアムデー

日時：11月19日(日) 10:00～11:00

対象：0～2歳児とその保護者

参加費：無料(入館料別)

定員：親子10組

申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)

あかちゃん絵本の読み聞かせや展覧会のガイドツアーを親子で楽しみましょう！



長野県民感謝デー

11月26日(日) 長野県民入館無料

日頃の感謝を込めて、長野県および松川村にお住まいのみなさまをご優待します。※受付でご住所のわかるものをご提示ください。

絵本のじかん

毎月第2・4土曜日 11:30～12:00

参加費：無料(入館料別)

定員：20名

申し込み：不要(参加自由)

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや手遊びを、親子でお楽しみください。

展覧会基本情報

展覧会名 没後50年 初山滋展 見果てぬ夢
いわさきちひろと師・中谷泰なかに たい
ちひろ美術館コレクション 冒険する子どもたち

会期 2023年9月9日(土)～11月30日(木)
※会期は予告なく変更になる場合があります。
○開館時間＝10:00～17:00
○休館日＝水曜日(祝休日開館、翌平日休館)

入館料 大人900円／18歳以下・高校生以下は無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上、学生の方は700円／障害者手帳ご提示の方、介添えの方1名まで無料／年間パスポート3000円

交通 ○電車の場合＝JR大糸線信濃松川駅より約2.5km
(タクシー5分、レンタサイクル15分、徒歩30分)
○電車の場合＝長野自動車道安曇野ICより約30分

安曇野ちひろ公園 イベント

おでかけホリデー

毎月第4土曜日(5月～10月のみ)

調理体験や火おこし体験、野菜の収穫におさんぽ会やマルシェなど楽しいイベントが盛りだくさん！



安曇野ちひろ公園イベントの最新情報・お問い合わせ先
TEL.0261-85-8822
最新情報はこちら chihiro-park.org

※上記のイベントおよび開館情報、会期、展示名は予告なく変更になる可能性があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話でお問い合わせください。

※2023年12月1日(金)～2024年2月末日は冬期休館となります。